

科目名		法学(Law)							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	機械工学科 電気工学科 制御情報工学科 物質工学科	学修	2 単位	必修	講義	通年	90 時間		
担 当 教 員		【常勤】 講師 濱本 千恵子							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達 目標レベル	①日本の法制度が理解できる。 ②刑法と民法の違いを指摘できる。 ③最高法規である憲法がどのような性質を持っているかを理解できる。								
到達目標 (評価項目)	優れた到達レベルの 目安	良好な到達レベルの 目安	最低限の到達レベルの 目安	未到達レベルの 目安					
到達目標 ①	法が憲法を頂点とする階層構造になっていること、法の制定・運用と権力分立が関係していることを理解できる	法の分類(形式による分類・制定機関による分類・適用範囲による分類・体系による分類)が説明できる	法が社会規範の一つであること、およびその他の社会規範と法との相違点を理解できる	法とそのほかの社会規範について、相違点を指摘することができない					
到達目標 ②	犯罪と不法行為の相違を、特に不法行為における過失責任の原則について説明できる	公法と私法の相違を説明できる	民事訴訟と刑事訴訟の違いを理解できる	民事訴訟と刑事訴訟の違いを指摘することができない					
到達目標 ③	憲法の「最高法規性」について説明できる	基本的人権の分類、特に自由権と社会権の相違を理解できる	三権分立・統治機構について理解できる	統治機構についての説明ができない					
学習・教育到達目標		(F)③④		JABEE基準1(2)		(a)			
達 成 度 評 価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	20						100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎	◎						
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○	○						
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【自己管理能力】	○	○							
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	現代社会, 倫理, 世界史, 日本史
教科書	初めての法律学・HとJの物語(松井茂記ほか、有斐閣)
補助教材等	法学六法(石川明ほか、信山社)
学 習 上 の 留 意 点	
日本は法の支配する立憲国家である。日本における様々な制度の背景には法が存在し、これらの制度が我々の生活を支えている。法学を学習する際には、我々の生活と法が密接な関係にあることを念頭に置く必要がある。成績については、年4回の中間・期末試験に加え、講義の際に行う小テストの結果を総合的に評価する。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
上述のように、法と我々の生活は、非常に関係の深いものです。講義の中でも様々な判例を取り上げますが、日ごろのニュースなどを見て、そのニュースの背景に、いかなる法、いかなる制度が存在するのかを考えてみてください。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	法とは何か―法学の基礎知識 1	シラバスの趣旨を理解できる。法が社会規範の一つであることを理解する。	シラバスを確認する
2	法とは何か―法学の基礎知識 2	法の分類について理解する。	配布資料をよく読む
3	刑法 1 犯罪と刑罰	日本における刑罰の種類をすべて把握する。	配布資料をよく読む
4	刑法 2 構成要件	犯罪成立要件のうち、構成要件該当性（実行行為、因果関係）について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
5	刑法 3 違法性	犯罪成立要件のうち、違法性（違法性阻却事由、被害者の同意）について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
6	刑法 4 責任	犯罪成立要件のうち、責任（責任能力、故意・過失）について理解する	教科書と配布資料をよく読む
7	刑法 5 共犯	犯罪が複数人で行った場合や、犯罪行為が行われたが結果が発生しなかった場合など、特殊な事案があることを理解する	過去の配布資料等を確認し、中間試験に備える
8	中間試験		
9	刑事訴訟法 1 刑事手続きの流れ	刑事訴訟の大まかな流れを把握する	教科書と配布資料をよく読む
10	刑事訴訟法 2 被疑者・被告人の人権	憲法における人身の自由として、被疑者・被告人の権利が保障されていることを理解する	教科書と配布資料をよく読む
11	裁判の仕組み 1	民事訴訟と刑事訴訟の違いを理解する	教科書と配布資料をよく読む
12	裁判の仕組み 2	裁判制度や裁判所の管轄、裁判の基準について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
13	刑事法の現代的課題	少年犯罪や自動車事故等における厳罰化の傾向と、その問題点について理解する	教科書と配布資料をよく読む。過去の配布資料等を確認し、期末試験に備える
14	裁判員について	裁判員制度のビデオを視聴し、日本における裁判員制度について理解する	配布資料をよく読む。過去の配布資料等を確認し、期末試験に備える
	前期末試験		
15	答案返却・解説	試験の解説により、自分の間違っていたところを確認する。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	民法 1	公法と私法の違い、民法における「人」と刑法における「人」の違いを理解する。	教科書と配布資料をよく読む
17	民法 2 不法行為	犯罪の行為者が、民事訴訟でどのように扱われるのかを理解する。	教科書と配布資料をよく読む
18	民法 3 契約	我々が「契約」という法律行為を日常的に行っていることを理解し、その種類や成立要件について把握する。	教科書と配布資料をよく読む
19	民法 3 契約	我々が日常的に行っている契約について、その種類や成立要件について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
20	民法 4 家族	法律上の家族はどのようにして形成されるのかを理解する。	教科書と配布資料をよく読む
21	民法 4 家族	家族であることによって生じる権利と義務、家族が死亡したときの相続について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
22	中間試験		
23	憲法 1 憲法の意義	日本をはじめとした世界各国で、なぜ憲法が制定されてきたのか、その歴史的背景を理解する。	教科書と配布資料をよく読む
24	憲法 1 憲法の意義	日本国憲法の基本原理について正しく理解する。	教科書と配布資料をよく読む
25	憲法 2 統治機構	国家の仕組み、権力分立について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
26	憲法 3 基本的人権	基本的人権の大まかな分類、及び包括的人権について理解する。	教科書と配布資料をよく読む
27	憲法 3 基本的人権	自由権の意味と種類を理解する。憲法上の規定がない、新しい人権が主張されていることを理解する。	教科書と配布資料をよく読む
28	憲法 3 基本的人権	社会権の意味と種類を理解する。また、憲法が国民の義務についても規定していることを把握する。	教科書と配布資料をよく読む
29	試験前のまとめ		過去の配布資料等を確認し、期末試験に備える
	学年末試験		
30	答案返却・解説	試験の解説により、自分の間違っていたところを確認する。	
総 学 習 時 間 数			90 時間
講 義			60 時間
自学自習			30 時間